

読んで・聴いて・歩いてたのしむ！

遊行の盆 うたまくら '10



さあみなさま踊るじやないか
やぐら囲んで輪になつて

盆よ盆よと待ちるが盆よ
盆がすぎれば秋がくる



「うたまくら」とは和歌の題材となった名所・旧跡のこと。ここでは盆踊り歌の歌詞に登場する名所や地名の意味で使っています。

藤沢の夏、遊行の盆。今年も盆踊りの季節がやってきました！

遊行の盆の踊り歌には、藤沢の地で歌い継がれてきたふるい盆踊り歌の歌詞や、盆踊りの歴史を踏まえた唄、藤沢の名所にまつわる詩がたくさん取り入れられています。踊りのにぎわいのなかで耳をすませば、藤沢に暮らしたひとびとが愛した地名、自慢の名所が、いくつも聞こえてきます。聞いて楽しむもよし、マップ片手に歩いてみるもよし。あなたもこの夏、遊行の盆と藤沢のちよつと“冴えた”楽しみ方を体験してみませんか？

遊行ばやし

揃らた揃らた 踊り子が揃うた
秋の出穂より まだ揃らた
さあさ皆様 踊るじやないか
やぐら囲んで 輪になつて 輪になつて

早くおのりよ 音頭の声に
よけりや吹きます 囃子笛
藤沢よいとこ 踊りの名所(でどこ)
月もまんまる 花ざかり 花ざかり

小栗おぐり(恋)しや 照手(てるて)の姫は
夫(つま)のためとて 車(くるま)ひく
ここはどこかと 駕籠(かご)衆(しゅ)に聞けば
ここは名高い遊行坂 遊行坂

わたしや江の島 海風そだち
潮の満ち干で 恋を知る
片瀬船頭と キンピラこぼつ
色は黒いが 味がよい

相州片瀬の戻りの松は
松は枯れても 名を残す
大山帰りの 菅笠かしげ
あの娘いるかと またのぞく
またのぞく

逢いはせぬかと 東海道で
一夜どまりの 旅の人
明日はお立ちか お名残り惜しや
笠に涙の 雨が降る 雨が降る

10年遊行の盆 開催情報

7/24 北口サンパール広場13:00～ 南口小田急百貨店前ミニステージ16:30～
ファミリー通り商店街17:00～
遊行通り4丁目商店街18:30～/遊行ばやしコンテスト19:00～
7/25 遊行寺境内 17:30～

盆おどり あれこれ

一遍上人と盆踊りの歴史

「盆踊り」が踊られるようになってから、だいたい500年くらいたつていてと考えられています。西暦1500年位の室町時代の日記に、お盆に踊った記録が残っています。その前はどうかだっただでしょうか？

盆踊りの元になったといわれるものに踊り念仏があります。藤沢の遊行寺は時宗という仏教宗派の一つですが、時宗を始めた方が一遍上人（いっぺんしょうにん）。一遍上人の一生を絵と物語で書いたものが遊行寺の保有する国宝「一遍聖絵」（いっぺんひじりえ）です。約700年前に書かれたものが今でも残っているのですが、ここに長野県や藤沢の片瀬で踊り念仏を行った絵があります。

この踊り念仏が、色々な変化を経て、お盆行事とも合流し、室町時代に盆踊りになったと考えられています。戦国時代には、織田信長が盆踊りで仮装したという記録があります。江戸時代の良寛さんは盆踊りが大好きだったようですし、明治の有名な作家、小泉八雲や森鷗外、石川啄木も盆踊りについて書いています。歴史上の色々な人も楽しんだ踊りと考えると楽しいですよ。



盆踊りって何？

盆踊りで思い浮かべるものは何でしょう？

東京音頭、炭坑節、ドラえもん音頭・・・

実は盆踊りには、大きくわけて、伝統系のもと、新作系のものがあります。

伝統系のもは、例えば遊行の盆でもおなじみの、秋田の西馬音内盆踊りなど、少なくとも江戸時代以前から続いているものです。藤沢にも遠藤・葛原の盆踊り（地図b、c）という伝統系盆踊りが存在します。伝統の盆踊りは名前のとおり、「お盆行事」と密接につながっています。

新作系のもは、皆さんご存知の冒頭にあげたものなどが、代表例です。

大正時代、日本のよいものを見直そうという運動がいろいろおこります。その中で、古来からある民謡を楽譜にとつていくという動きや、新しい民謡風の曲を作ろうという機運がおこります。新民謡の最初は、中山晋平作曲野口雨情作詞の須坂小唄といわれます。そして、最も売れた新民謡は「東京音頭」。これは中山晋平作曲 西条八十作詞のもので、

実は藤沢にも晋平・八十コンビの「藤沢音頭」、晋平作曲で、盆踊り研究で有名な小寺融吉作詞の「江ノ島小唄」などがありました。

伝統系は後継者の問題でどんどん少数になってきています。新作系も長く愛されるものは限られています。どちらも大切な財産。遊行の盆は、新作の「遊行おどり」、伝統の踊りの数々、いずれも大切にしたいという思いより支えられています。

見えないけれどあるもの

夏の風物といえば、もちろん盆踊り。それと怪談や妖怪話などがあります。

10年朝ドラにもなっている水木しげるさんの漫画に出てくる妖怪の代表選手は皆さんもご存知のものがあるでしょう。

実在するかどうかは、意見がわかれるでしょうが、日本人がそういう目に見えないけど何か感じるものを大切にしてきたのは確かです。お盆のご先祖の精霊なども、その点では共通しています。

では、お化けや妖怪とお盆の精霊の違いは何でしょう。

実は妖怪も精霊も中世（鎌倉・室町）までは単に「みえないけれどあるもの」でした。それが妖怪については、江戸時代にキヤラクターとしての絵がかかれ、それが現代の漫画・アニメにも通じてきています。

精霊の方はどうでしょう？ 迎え火をしたり、お送りしたり、見えないものを、見えないまま、「かつ、あたくもいるようにふるまう」ことで象徴的に表現をしています。おそらく昔ながらの方法だと考えられます。精霊はご先祖の霊ですので、敬いという意味で、絵などに描くのがはばかられたのかもしれませんが、盆踊りも、精霊をおもてなしして、一緒に楽しむのが元々の意味合いでした。

自然も含めて、目に見えないものを大切にすることで、昔の方は、心豊かに暮らしていたのではないかと思います。盆踊りを通じてそんなことに思いをはせるのもよいですね。